

『田原芳論文集』の刊行に寄せて

2005年11月1日

土方 克彦

この度、田原芳さんの遺稿集を発刊いたしました。あの1960年代から70年代初頭、「世界同時革命」とか「世界革命戦争」「世界プロ独」などの単語が飛び交っていた頃、いわゆる「関西ブント」と呼ばれていた労働者・学生たちの間で熱心に読まれていた論文の復刻、第一弾です。

その「復刻刊行委員会」として名前が上っている人が3人いますが、実はこの企画について私はほんの少し口を利いただけという関係です。3人の中で、私がほんの少し歳上だというだけです。

すでに皆さんのお手元に届いているかと思いますが、私にとっては大先輩である中島鎮夫さん、ペンネームが田原芳さんの遺稿集をまとめた『プロレタリア独裁への道〈I〉』です。私などは深い理論的考察は苦手ですが、関西ブントや第二次ブントが走り回ったあの時代について、熱く想いだすことが多々あります。

ところで、この遺稿集を編纂した功労者の第一人者は、岩田吾郎さん、本名は大西巧さんという人ですが、本人も語るように70年当時は高校生であり、活動を開始したときはすでに第二次ブントという団体は四分五裂してしまっていたということらしく、田原理論との接点も手探りで始めたとのこと。そういう人が、今回企画から立案、そして関係者への働きかけ、さらに製作費用も一人でまかなってきました。そういう意味では、最大の功労者です。

もう一人、編集に加わっている松岡利康さん、この人は70年に同志社の入学試験を受験したそうで、ちょうどその日は今出川校舎をはさんで第二次ブントと赤軍派との武力対決が展開され、機動隊が大挙出動しており、彼にとっては入学試験そのものが「粉碎」されるのではという特異体験を持ち、入学後はセクトのご都合主義を嫌ってノンセクトの武闘派である全学闘運動に身も心も打ち込んだという人です。社会に出てからは出版事

業を開始して、現在は鹿砦社という会社の社長、ついこの間も新聞を販わした事件で、現在獄にあります。この人は、過去に田原芳さんをはじめとして関西ブントの資料集を復刻出版したくらいで、今回も専門家としてこの本の校正を全部引き受けてくれました。

このお二人の力で、この本が皆様のお手元にまで届くことができました。私などは、最初の頃にえらそうなことを言ったかもしれませんが、殆どお手伝いも叶いませんでした。私の自己紹介を忘れていましたが、64年に同志社大学に入学して、今日も相変わらず市民運動の尻尾に参加しています。

出版にいたる事情をこれ以上は詳しく申しませんが、こういう経緯で私も名前を連ねています。出版したことで「単なる同窓会的追憶に終わらせるのでなく、田原理論の共同の交流・総括作業として行なうならともかく」という真摯なご教示もありますが、田原さんが翔けぬけんとしたあの時代をいろんな角度から解析していこうという趣旨で手にとられたら如何か、と思います。

前置きが長くなりましたが、ともかくアルバムを繰るような気持ちの人も、あるいは自らの人生を総括しようという心意気の方も、この『プロレタリア独裁への道〈I〉』の表紙を開きましょう。私としては、どっちかというところあの流行り歌唄いの唄う「黒白フィルムは燃えるスクラムの街・・・」という気分ですが・・・

ともあれ、皆さんがこの田原芳遺稿集をご購入くださるようお願いいたします。

※

『関西ブント 田原芳論文集「プロレタリア独裁への道(1)」』
復刻刊行委員会編集、全 451 頁、頒値 3000 円
同(2)、(3)で 60 年からの論文を収録予定、